

# 平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【北海道厚真町】

実施報告書  
(概要版)



## 北海道厚真町について

厚真町（あつまちょう）は、北海道の南部に位置し、苫小牧市、安平町、むかわ町、夕張市、由仁町と隣接しており、町北部から中央部にかけて森林・農業地帯が広がり、町南部が太平洋に面しています。

人口は約4,700人、総面積約404km<sup>2</sup>であり、稲作を中心とした農業、林業、資源管理型の漁業が盛んです。

厚真町では、「快適に暮らせるあつま」を目標に、東日本大震災以降、防災意識の高揚、町民と行政が一体化した地域防災対策の推進を目的として、防災訓練や防災教育の充実を図っています。



地図出典：国土地理院

## 訓練概要

■訓練想定：11月5日（日）午前9時に十勝沖・釧路沖を震源とする震度5強の地震が発生。気象庁は午前9時2分に津波警報を発表し、浜厚真地区では午前9時55分に最大8.1mの津波が到達する。沿岸部の住民はただちに指定の津波避難場所へ避難を開始した。陸上自衛隊東千歳駐屯地は地震発生後直ちに災害派遣要請を受け、上厚真小学校へ部隊を派遣した。

■実施日時：平成29年11月5日（日）9：00～12：30

シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練

9：00～9：30

自由参加型訓練（応急救護訓練、災害図上訓練等）

10：00～11：30

炊き出し訓練、パネル・車両等展示

11：30～11：50

物資仕分け訓練

12：00～12：30

■主催：内閣府、厚真町、北海道

■参加者数：300名（※参加機関を含む。）

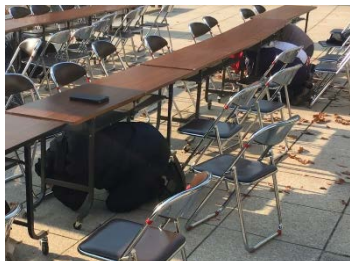
■参加機関：津波浸水想定区域内自治会（上厚真地区、共和地区、共和団地地区、厚和地区、浜厚真地区、鹿沼地区）、胆振東部消防組合消防署厚真支署、厚真消防団、厚真町交通安全指導員会、北海道札幌方面苫小牧警察署、陸上自衛隊第7師団第7特科連隊、室蘭地方气象台、北海道コカ・コーラボトリング(株)苫小牧事業所、新日本海フェリー(株)苫小牧支店、北海道電力(株)苫東厚真発電所

## 当日の訓練内容

### 09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練

全町民を対象に、「自助」の実践として、シェイクアウト訓練を実施した。津波浸水想定区域内の住民及び企業は、町指定の津波避難場所への避難訓練を行った。避難訓練後名簿による安否確認訓練を行い、発災から避難までの一連の避難行動を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



### 10:00～ 自由参加型訓練（応急救護訓練、災害図上訓練等）

シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練の実施後、全町民を対象に、上厚真小学校をメイン会場とし、災害時の「自助」と「共助」の重要性を学習する場を会場内に展開し、自由参加型訓練として実施した。

訓練内容としては、避難所でのプライバシー確保等を学ぶための間仕切り組み立て体験、避難所で水が使用できない場合の物資の有効活用や生活の知恵に関する講習を実施した。

また、身近な道具を用いた応急救護訓練、実際の災害対策を検討する災害図上訓練、災害のメカニズムや防災気象情報を学習する防災講話を実施した。

▼間仕切り組み立て体験



▼応急救護訓練



▼災害図上訓練



▼防災講話



### 11:30～ 炊き出し訓練、パネル・車両等展示、物資仕分け訓練

自由参加型訓練後に、陸上自衛隊による炊き出し訓練、関係機関による災害対応車両の展示や、パネル等の災害資料の展示を実施した。

さらに、訓練終了時間に合わせて、備蓄食料と啓発グッズを救援物資と見立て、物資仕分け訓練として、参加者に配布し、防災意識の向上を図った。

▼炊き出し訓練



▼物資仕分け訓練

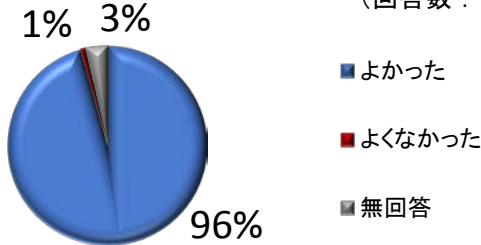


## アンケート結果

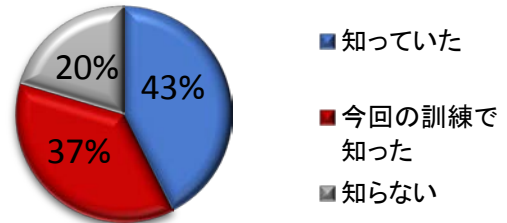
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：113人)

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

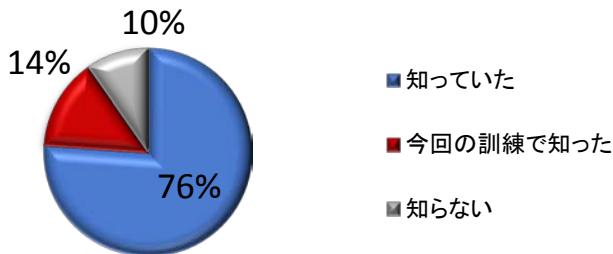
(回答数：113人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？(回答数：113人)



問 自宅から津波避難所までの経路を知っていますか。(回答数：97人)



(注：回答数は無回答分を除いて集計)

## 訓練の評価

訓練当日は、町民や参加機関等合わせて約300名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後には、訓練参加機関による振り返り会議を開催した。会議で挙げた意見や訓練終了時に訓練参加者から得られたアンケート結果等を分析し、今回の訓練実施成果や、防災・減災対策や防災訓練に関する今後に向けた知見を整理した。本訓練は以下のように評価できるものであったといえる。

- 発災から避難まで一連の行動を実施したことにより、災害時の行動とその問題点について認識する効果的な機会となった。
- メイン会場で行われた自由参加型訓練については、多世代にわたり多くの住民が対応方法を学習したことで、災害時における「自助」「共助」意識の醸成を図ることができた。
- 訓練参加機関においては、災害時の一連の対応や手順を確認するとともに、災害時の機関間の連携の必要性について、学習する機会となった。

また、次のような課題が指摘された。

- 津波避難訓練については、津波浸水想定区域内地区ごとの特色に応じて、津波避難場所の設定を検討する必要がある。
- 寒冷地である当町においては、季節により避難行動の様相が大きく異なることから、夏季・冬季それぞれを想定した訓練を実施する必要がある。
- 町内の自助・共助・公助の防災体制を確立するため、町、住民、関係機関間での協議・検討の場を設け、相互連携を深めていく必要がある。